

わかるから楽しい学習指導のあり方（算数科の指導を通して）

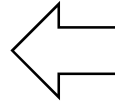
1. 研究の概要

<児童の実態と課題>

「平成29年度 全国学力・学習状況調査 算数A・Bにおける四分位数による階層分布」の分析から、全国の結果と比較すると、A層が薄く、D層が厚い分布になっていた。全体的にC層・D層の割合が多いため、下位層の学力向上が課題である。

<学力向上のための取り組み>

- 学力向上対策は、算数（数と計算）に重点を置く。
- C層やD層の児童の力を伸ばす授業を行う。



- ・練習量が確保しやすい。
- ・できた実感を持たせやすい。
- ・児童の変容が検証しやすい。

課題解決に向けた具体的な取り組み

①わかりやすい授業づくり

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを行った。まず、板書やノート指導など学習の流れを校内で統一した。学習の流れを児童に分かりやすくするために、共通の掲示物を作成した。進級しても同じような流れで授業が進むため、児童はスムーズに授業に取り組むことができる。そして、「練習時間を確保すること」に力を入れて取り組んできた。ここで達成感や成就感を味わわせ、算数に対する苦手意識を拭うことで、児童の意欲向上につなげることがねらいである。簡単な問題から徐々に難しい問題に取り組めるようにしたり、その場で自己採点をしながら進めたりするなど、意欲的に学習できるよう工夫した。

②教材の開発と活用

算数の計算分野に特化したステップ学習教材を作成した。朝学習や宿題での取り組みを中心に全校で活用している。問題を解くのに困難な場合、学年をさかのぼって復習することができる。ボランティアの保護者や担任以外の教師に採点をしてもらうことで、児童の意欲的な姿が見られた。すぐに評価してもらえ、たくさんの大人に励ましの言葉をかけられることで、学習意欲が向上した。

③家庭との連携

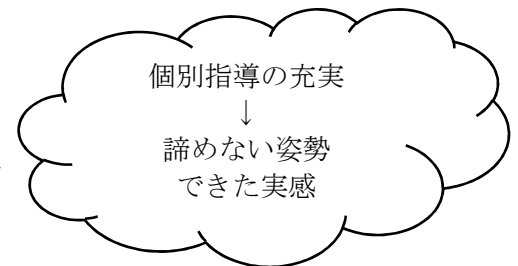
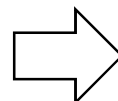
児童に家庭学習の習慣化を図ることを目的に、「トライやるウィーク」という家庭学習推進期間を1週間設けた。児童が学習内容や取り組み時間などを記録し、保護者は終了後に感想を記入する。その感想から、保護者の子どもの取り組みに対する関心も高まってきていることが分かる。

④きめ細かな指導

学力向上教員・スタッフ・学習サポーターが、主に算数科の授業においてティーム・ティーチング指導にあたっている。きめ細かな個別指導が可能となるため、どの児童にとっても授業での困り感を解消してくれる大切な存在である。

<加配教員の活用> 算数を中心とする授業のサポート体制

- 1・2年生：市スタッフによる授業サポート
- 3・4年生：学習サポーターによる授業サポート
- 5・6年生：学力向上教員による授業サポート



2. 今後の取組について

形成的評価（授業後の振り返りなど）を取り入れながら、算数の授業研究について検証していくこと、「梨の子ぐんぐん算数プリント」の取り組みを見直しながら継続していけるよう体制を整えること、「トライやるウィーク」における学習内容を、家庭と連携しながら充実させていくことである。